



# アーティスト、いま大地で 北に生きる

川畑 摩沙子さん

道展会員・オホーツク管内滝上町

## 女性、自然の魅力と美しさを追究

岡山県の芸術科学大学を卒業した年に伝統の道展（北海道美術協会）に初出品して新人賞を受賞以来15年――。昨年は、画面いっぱい広がる木々と地面の草花を背景に、一人の女性を描いた130号の大作『刻』で会員に推挙され、今年から審査会員に。「これからも女性と自然をモチーフ（主題）に生命感に富む作品を描いていきたい」。

「生まれた時から絵を描く環境で育ち、絵の世界以外考えたことはありませんでした」。札幌市の幼稚園を卒業する記念誌に「将来は画家になりたい」と書き、小学校2年生から油絵を描いた。当時の作品を今でも大切にしている。

父親の川畑盛邦さん、母親の和江さん（札幌市西区）はともに道展会員で、個展、グループ展で存在感を発揮している。



昨年の90周年記念道展で会員推挙になった油彩『刻』(130号)



木、花と女性の生命力、美しさを描き続ける川畑摩沙子さん

今年9月、札幌市で初めて親子3人展を開き、訪れるファンの心を捉えた。作品は「個性を大切にすること」を基本にそれぞれ独自の世界を追究し刺激し合っている。

摩沙子さんは「美しい花や木と若い女性の強い生命力、生きる力を描きたいのです」。大学時代に「札幌では見たことがなかった」という竹林や水稲の鮮やかなグリーンに大きな刺激を受け、今では「白樺林が好きです」と、印象深い風景を描き、その前面に20歳代から30歳代の静かに前方を見つめ、何かを語るような女性を描き込んでストーリーをにじませている。

2001年に道展で新人賞を受賞以来3年で会友推挙に。02年に佳作賞を受賞した作品『森・私の向こう側』では「個性的な描写で画面に緊張感がある。人物の心理を色彩によって表現した力作」、会友推挙になった『森・ここから始

まる』では「画面を切る空間処理が巧みである」と高く評価された。

町木は「サクラ」、町花を「シバザクラ」と指定し農業、林業、観光が基幹産業の滝上町の人口2700人の中で道展会員は一人だけ。一般出品者もいない。道展会員であることを知った滝上郵便局が、昨年個展の会場を提供した。

筆とペインティングナイフで入念に描き込む。職場が多忙のため夜に集中することが多く、「大作1点仕上げるのに半年はかかります」。

鮮やかなレッドカラーのマイカーを運転、感動し強く印象に残る風景をカメラに収め、スケッチをしキャンバスに独自の風景をつくり上げる。描く女性像もイメージの世界。「将来は東京の公募展にも挑戦したい」。姉の摩季子さんはデザイナーであり、アート一家である。（五十嵐恒）

### かわばた まさこ

- 1977年 札幌市生まれ
- 2001年 岡山県倉敷芸術科学大学芸術学部美術学科卒業。この年第76回道展に初出品して新人賞受賞
- 02年 道展で佳作賞、03年会友推挙、14年会友賞、15年会員推挙  
02年から倉敷市の美術団体「象(しょう)の会」に06年まで出品
- 03年 札幌市で初個展。04年、06年、08年にも。03年に天塩川温泉ギャラリー（音威子府村）、15年に滝上町でも
- 04年 樹を語り展（音威子府村）に出品
- 05年 第1回寒昂展（札幌市）に出品
- 06年 札幌美術展「札幌を彩る作家たちⅡ」に出品
- 08年 オホーツク管内小清水中学校に赴任、12年から滝上中学校に
- 09年 道教職員美術展で特選、10年奨励賞
- 16年 親子3人展を札幌市で開催

道展会員